

口蹄疫発生から10年、町内のウシの飼育頭数は口蹄疫前の9割ほどまで回復し、以前の活気を取り戻しつつあります。ところが、新型コロナウイルスの影響により、肉牛価格の下落など新たな苦境に立たされています。

そんな最中、10月2日に開催された第9回児湯郡市育成牛共進会から朗報が届きました。優等賞5頭のうち、3頭が新富町からの出品だったのです。さらに、優等賞の中から最も優れたウシに贈られるグランドチャンピオンに、横山穂積（よこやまほづみ）さんが育てた「ふくみ2の3」が選ばれました。

共進会とは、いわば「ウシのミスコン」。体重やスタイル、毛並みなどの項目に、厳しい基準が設けられています。給餌や体調管理といった通常の世話に加え、シャンプーでウシの体を洗ったり、毛並みのよい冬毛が生えるよう扇風機を当てたりと、ケアが欠かせません。これらのケアがストレスにならないよう、時間をかけてウシの生活リズムに組み込むという配慮も必要です。

今年は新型コロナウイルスのため先行が見通せず、共進会開催が決定したの

いま新富町のこの人が気になる

SHINTOMI-JIN

#008 今月の新富人

1979年、新富町生まれ。中学生の頃、両親が兼業農家としてウシやブタの飼育を始めてから畜産に興味を持つ。畜産関連の会社に勤務したのち、5年前から専業の繁殖農家となる。趣味は魚釣り。



繁殖農家 横山穂積さん

は、本番のわずか2週間前。ウシへのストレスが心配されましたが、「ウシをよく観察して、基本に忠実に世話をする」ことを守り、見事、栄誉に輝きました。普段は淡々と仕事をこなす横山さんも、思わず顔がほころびます。

「時間がかり、その時の市場

価格に左右されるウシの飼育は、まるで博打のようだけど、やった分だけ返ってくる。だから、評価されてセリで想定より高値が付いた時や、今回のようにグランドチャンピオンを獲得できた時は、この仕事をやっ



ていてよかったなと思います」

現在、56頭のウシを育てている横山さん。小さい頃から実家でウシやブタを飼育していましたが、ウシ一本でやりたいという思いから、勤めていた会社を辞めて、5年前に独立しました。将来は70〜80頭くらいまで、規模を拡大したいと考えています。

「いつか、郡の共進会や県の共進会よりも上の、全国共進会に出品したい。全国まで行ったから、賞を取ったからといって、価格に直結するわけではないけど、他のウシより自分のウシが評価されたとなると嬉しいし、名誉ですから」

次の全国共進会は2年後。コロナ禍もなんのその、静かな闘志がみなぎっていました。



●新富町でご活躍されている方を編集部までお寄せください。自薦・他薦は問いません。図総務課 ☎32・0196